

## 港湾関係機関船舶一般公開

令和4年8月28日（日）に小樽港第2号ふ頭及び第3号ふ頭にて、小樽港周辺で活躍する港湾関係機関船舶の一般公開を行いました。

このイベントは、今年、小樽市が市制100周年を迎えたことから、これに合わせて、小樽港や市民の暮らしを守る公的機関の役割等を紹介し、理解を深めていただくことを目的に行ったものです。



巡視船「えさん」



ミサイル艇「くまたか」

当日は、小樽海上保安部の巡視船「えさん」や海上自衛隊余市防備隊のミサイル艇「くまたか」、水産庁北海道漁業調整事務所の漁業取締船「白竜丸」、小樽市のひき船「たていわ丸」の一般公開や北海道開発局小樽

開発建設部の港湾業務艇「みずなぎ」による「小樽港みなと見学会」が行われたほか、国立小樽海上技術短期大学のブースが設けられ、多くの市民が会場を訪れました。



漁業取締船「白竜丸」



港湾業務艇「みずなぎ」

（小樽市産業港湾部港湾室港湾振興課）

## 「ザ・シンポジウムみなとin室蘭」が開催されました！ ～youtubeでも配信中です～

令和4年9月2日(金)に「ザ・シンポジウムみなとin室蘭（同実行委員会主催、室蘭市共催）」が室蘭市民会館で開催されました。

開港150年を迎える室蘭港では、天然の良港と製鉄・鉄鋼業等の産業集積を活かした水素や再生可能エネルギーを活用した脱炭素化の実現に向けた取組が進められています。

そこで、本シンポジウムでは「巷からはじまるカーボンニュートラル」をテーマに、室蘭市が有する産業・技術と、港湾が有するモノ・ヒトが集う拠点という機能を活かして、脱炭素化の取組を巷からまち全体に広げていくことを主題に有識者との議論を行いました。

基調講演では、国土交通省交通政策審議会港湾分科会会長で京都大学経営管理大学院の小林潔司特任教授より、「室蘭港のめざすべき未来へのアプローチ」と題した講演がありました。

パネルディスカッションでは、室蘭市の青山剛市長、合同会社SUM-i-CAの石井裕子代表社員、北海商科大学の田村亨教授、北海道立総合研究機構の小高咲理事長、小林潔司特任教授のパネリスト5名により、市民・企業・教育機関・行政が協力して取り組む方策などをテーマに議論が交わされました。

このシンポジウムには、会場197名、ライブ配信274名の合計471名となる多数の参加がありました。室蘭港の将来像をみなさまで共有し、それぞれ活発な取り組みに発展することが期待されます。

なお、当日の様子はyoutubeでも配信中ですので、ぜひご覧ください。  
(一社)寒地港湾空港技術研究センターのHPからもご覧いただけます。

URL : <https://cpd.tc-entry.net/2022/movie/> (動画ダイレクト)  
<https://www.kanchi.or.jp> (センターHP)



(港湾空港部 港湾計画課)

## 「室蘭港港湾施設群」が土木遺産に！

・室蘭港の歴史的な港湾施設が、9月9日、令和4年度土木学会選奨土木遺産に認定されました。室蘭港としては初の認定となります。



・室蘭港港湾施設群は、国内有数の石炭積み出し港として、我が国の近代化と鉄の街の飛躍的發展に貢献した港湾の歴史と技術を伝える構造物群です。

※土木学会選奨土木遺産の認定制度は、土木遺産の顕彰を通じて、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として平成12年度に創設されました。その結果として、社会へのアピール、土木技術者へのアピール、まちづくりへの活用などが促されることが期待されています。

※北海道の港湾としては、これまで、小樽港(平成12年、平成21年)、稚内港(平成15年)、函館港(平成16年)、網走港(平成18年)、留萌港(平成22年)、松前港(平成26年)、苫小牧港(平成30年)が認定されています。

・土木学会選奨土木遺産ウェブサイト

[https://committees.isce.or.jp/doboku\\_isan/](https://committees.isce.or.jp/doboku_isan/)

・室蘭開発建設部プレスリリース

<https://www.hkd.mlit.go.jp/mr/release/a00ihh0000004ye0-att/a00ihh0000008hxu.pdf>

(港湾空港部 港湾建設課)

## 「ブルーカーボン講演会」が開催されました

令和4年9月29日（木）、留萌開発建設部は2050年カーボンニュートラルに向けた有効な吸収源対策の一つであるブルーカーボン生態系に着目し、管内におけるブルーカーボンの取組を後押しするため、留萌開発建設部会議室で「ブルーカーボン講演会」を開催しました。

はじめに、平井 康幸留萌開発建設部長より、「地域のブルーカーボンの取組を推進するには、国や自治体だけではなく、漁業関係者、民間企業、市民団体など多様な主体の皆様との連携が必要であり、様々な取組を後押ししたい」と開会の挨拶がありました。

続いて、ブルーカーボン研究の第一人者である国立研究開発法人海上・港湾・空港技術研究所 港湾空港技術研究所 沿岸環境研究グループ長の桑江 朝比呂氏より、「Jブルークレジット®について」と題した講演をいただきました。講演では、社会実装を進めるためのヒト・モノ・カネ・シクミ、クレジット認証申請の要件として、「気候変動対策を目的として自主的に事業を開始・改変した追加性のある活動」の必要性や増毛町海岸の藻場再生などの事例紹介があり、加えて、今まで実施している漁業と気候変動対策を両立して発展させることもできることから、多くの方々にブルーカーボンの取組にご参加いただきたい」とのお言葉がありました。

質疑では、留萌港内で計画するブルーカーボンの取組推進に向けた藻場の調査方法、気候変動対策としての追加性の判断及び希少種海藻の環境価値などについて、予定時間を超過するほどに議論が交わされました。

今回の講演会は、ブルーカーボンの取組を担う可能性がある北海道留萌振興局、管内沿岸の自治体及び漁業協同組合の方々にご案内し、会場27名、WEB配信13名の参加がありました。会場には、山口北海道留萌振興局副局長、中西留萌市長及び堀増毛町長にもご出席いただくなど留萌地域の関心の高さがうかがえました。また、講演会終了後、参加者から「講演内容がわかりやすくブルーカーボンに対する理解を深められた」などの声が聞かれました。

これからのブルーカーボン生態系の創出や再生、Jブルークレジットを導入したさらなる取組の活発化により、カーボンニュートラル社会の実現が期待されます。



桑江沿岸環境グループ長によるご講演



参加者による質疑

（港湾空港部 港湾計画課）

## ポート・オブ・ザ・イヤー2022 室蘭港への投票をお願いします

(公社)日本港湾協会が主催する「ポート・オブ・ザ・イヤー2022」の投票を受付中です。

今年は開港150年を迎えた「室蘭港」の受賞に向けて、北海道を挙げて取り組んでおりますので、よろしくをお願いします。

室蘭港では記念となる節目に合わせて、大型クルーズ船対応の岸壁供用、港湾都市協議会の総会、Sea級グルメ北海道大会など、道内の港湾関係者の皆様にご協力をいただきながら、様々なイベントを通じて新たな交流と賑わいを創出しました。

また、カーボンニュートラル社会の実現に向けた取り組みも積極的に進めています。

### 投票の方法 (簡単です!)

投票はQRコードからアクセスして、次の4ステップです。

1. 名前入力
2. 性別、職業、年代の選択
3. メールアドレス入力
4. 室蘭港を選定する理由入力  
(簡単な内容で構いません)

投票はココから! ▶



第66回港湾都市協議会総会 (7/21)

**11/30 まで** (公社)日本港湾協会主催  
**ポート・オブ・ザ・イヤー2022 投票受付中**  
みなとの話題づくりに最も優れ、みなとの元気を高めた港湾を皆さんの投票で選びます。



**室蘭港 開港150年**  
1872年の開港以来、石炭積出港から鉄鋼コンビナートへ発展、日本のものづくり産業を変えてきた「天然の良港」。

**室蘭港を応援してください!**

- POINT
- 北海道・東北で唯一、世界最大22万トン級クルーズ船の受け入れが可能となった港湾
- 洋上風力発電の技術開発拠点や世界最大級SEP船の母港として、カーボンニュートラル社会の実現に欠かせない港湾
- 開港150年を記念する数々のイベントで“みなとの元気”を高めた港湾

**投票はココから!** ▶

みなと名は 室蘭港「室蘭港」!

もっと詳しく (PR動画)

室蘭市・みなとオアシス室蘭 (お問合せ) 室蘭市港湾政策課 ☎ 0143-22-3192 🔍 ポートオブザイヤー2022

(室蘭市港湾部港湾政策課)

## 網走港における船舶交通の安全を確保し 水難事故を防止するための条例を制定しました。

網走港は、サケ、マス等が遡上する一級河川の網走川が流入しており、サケの遡上時期になると釣り目的の小型船舶が航路や泊地に進入、停泊（留）するため、商業船や漁船等の航行の支障となる事態や、小型船舶の乗船者自身の生命の危険を発生させる状況となっていました。

中でも船舶検査や操縦免許が不要で、手軽に使用できる小型のゴムボート（ミニボート）による航行が多くみられ、これらの利用者の中には、海事法令に関する知識を有していない者もあり、悪天候にもかかわらず出港したり、航路を航行する漁船や貨物船の直前を横切るなどの危険な行為も見受けられました。

実際に、釣り目的で港湾区域内に進入したゴムボートが横波を受け、乗船者が転落し、犠牲者が出るという事故が発生し、港湾を利用する団体から「さらなる犠牲者が出ないよう、何らかの規制措置を設けてくれないか。」という要望がありました。

新たな規制を設けることについては、「港湾法や港則法等の法令に抵触するのではないか。」あるいは、「多くの人々のささやかなレクリエーションを奪うものではないか。」等の意見があったところです。

そこで網走市は、学者、弁護士その他の有識者で構成する「網走港安全利用対策推進委員会」を設置し、各委員が積極的な議論を交わし、港湾を利用する関係団体のヒアリングなども行い、パブリックコメントを経て、「網走港船舶交通の安全な利用の促進に関する条例大綱」として答申を頂きました。

答申の内容は、「網走港の一定の水域について、事故を生じ、または船舶の航行に支障を及ぼしている小型船舶の進入を規制する措置を講ずることにより、同港の船舶交通の安全を確保し、及び水難事故を防止する必要がある」という趣旨であり、この大綱をもとに、「網走市網走港の安全な利用の確保に関する条例」を制定したものです。

この条例では、遊漁船、プレジャーボート、ミニボート等の対象船舶（小型船舶）が規制対象水域に進入することについて、市長の許可を要することといたしました。違反行為者に対する罰則規定は設けておりませんが、嚴重注意や警告をし、それでも従わない者には、軽犯罪法の適用も視野に入れています。

悪質な事例については、警察や海上保安署等と連携することで実効性を確保し、網走港の安全な利用を推進していきたいと考えています。



(網走市建設港湾部港湾課)

## 「Cyber Port」進行中



<https://www.cyber-port.net>

### 【Cyber Portとは?】

- ・国土交通省港湾局では、現実の港湾(physical Port)に関する情報を全て電子化し、情報の利活用による利便性・生産性を最大限まで高める「Cyber Port」の構築を進めています。
- ・北海道開発局港湾空港部では、インフラ分野のロードマップに基づき、機能や対象港湾の拡大に向けて鋭意作業を行っています。

### 【インフラ分野のロードマップ】

データ	ソース	Step 1	Step 2	Step 3
<ul style="list-style-type: none"> <li>・区域平面図(港湾区域、河川区域等)</li> <li>・施設位置図</li> <li>・施設断面図</li> <li>・港湾情報(潮位等)</li> <li>・施設諸元等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港湾台帳</li> <li>・管理台帳</li> <li>・港湾管理者のシステム</li> </ul>	プロトタイプ(10港) 2021年度 システム設計・構築 台帳等の電子化 2022.4 テスト稼働 2022年度中の運用開始	重要港湾以上 (125港)に拡大	全港湾 (932港) に拡大
<ul style="list-style-type: none"> <li>・港湾計画図</li> <li>・港湾計画書</li> <li>・維持管理情報</li> <li>・工事完成図面(直轄)</li> <li>・その他区域図(海域)等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港湾計画(重要港湾以上)</li> <li>・維持管理DB</li> <li>・電子納品物システム</li> <li>・海しる(海上保安庁)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの一元管理による業務効率化</li> <li>・情報共有、工事データの活用による維持管理の効率化</li> </ul>		

- ・今年度は、プロトタイプ(全国で10港)がテスト稼働しており、北海道開発局管内では苫小牧港の港湾台帳等のデータが格納されています。



Cyber Portプロトタイプ操作画面(苫小牧港)

- ・北海道開発局港湾空港部では、昨年度から対象港湾の拡大に向けて、港湾管理者の皆様から以前ご提供いただいた港湾台帳や港湾施設台帳の帳簿・図面等をデータ化、Cyber Port格納に必要な作業を行いました。
- ・Cyber Portに蓄積したデータにより、港湾整備・維持管理、迅速な災害復旧などへの活用が期待されます。港湾管理者の皆様におかれましては、Cyber Port構築にあたり、問い合わせ等の依頼をさせていただく場合もありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。  
(港湾空港部 港湾建設課)

## Webにより港湾管理講習会を開催しました！

令和4年8月31日(水) 今年もWebシステムを利用した開催となりました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から普及したWebシステムですが、移動の負担も少ないこともあり、90名を超えるご参加をいただきました。当日は、音声や画像にも大きなトラブルもなく、講習会を無事に終了させることができました。皆様のご協力、ありがとうございます。

また、今年度の取組事例のご紹介は、港湾空港技術研究所の野上主任計画官による「港湾構造物の目視調査への新技術の活用」で、水中ドローンや水中ロボに関するものでした。受講後のアンケートでは、「とても参考になった」、「今後も継続して事例紹介をしてほしい」とのご意見をいただきました。

本講習では、事前にアンケートを行い、受講したい項目や、他港の取組事例の紹介など皆様のご要望をお聞きしていますので、今後ともご協力をお願いします。



港湾空港部の小会議室から、講師がご説明している状況です。

## 講習会に対するご意見———ありがとうございました

### ～On line形式 について～

- ・回線の状況により聞き取りにくいので、WEB形式ではなく対面式での開催をお願いしたい。

### ～事例紹介について～

- ・目視調査、点検に関する新技術や効率的な手法等の情報は、非常に参考になるので、今後も取り上げてもらいたい。
- ・ドローンでどのような調査を実施しているか等、実際の動画があれば講義に変化があり、参考にもなるのでご検討いただけたらと思います。

### ～講義内容への要望について～

- ・公有水面埋立や補助事業の手続き等、港湾管理者の実務に直結する内容でしたので、大変参考となりました。
- ・開催時期に関して、例年7月に異動がありますので、この時期に開催していただくと大変助かります。
- ・各講義終了後の質問のある方は発言してくださいという場では名乗り出づらいつと感じたので、気になった点等を講義中にチャットで送っておきそれを各講義終了後、進行の方に質問して頂くなどであれば意見交換がしやすいのではないかと感じた。
- ・埋立申請に係る工事着手までの事務手続きについて、講義内容の充実（フロー図等を追加）をお願いしたい。

(港湾空港部 港湾行政課)